

## 日 本 一 周 日 誌

7月3日(金) 東京——仙台 天候 晴のち雨

3年生全員は朝5時半本校記念館前に集合し、岡部長はじめ先輩及び後輩と共に記念撮影、次で3年生の制服での記念撮影をした後6時40分盛大な見送りの中を出発し、一路国道4号線を目的地仙台に向いました。途中利根川栗橋陸橋にて藤倉家より果物のさし入れをしてもらい全員元気に利根川を渡った後タツサン860が古河でキトラレーダー故障のため修理に3時間要す。他の者は先に進み仙台名取川の橋の下で雨をさけて6時頃テントを張る。夕食の準備の間仙台警察署に翌日の測定の許可をもらいに行き許可を得る。3時頃おくれたタツサン860が着き、全員そろって夕食を取る。10時全員寝る。なお小林、松本先輩が明大記念館前より利根川まで伴走見送りをしてくれる。

7月4日(土) 仙台で測定 天候 晴

全員5時半に起床。7時朝食して午前班は測定のため食後すぐ東二番町交叉点に行き7時半より測定を始める。又午後測定班は自由時間のため各自思い思いの事をやり12時昼食をして12時半午前班と換わり午後の測定を行う。なお午前測定者は一時昼食をとりあとは自由時間のため色々の所を見学に行く。午前、午後の測定中交番のお巡さんに大変お世話になる。又日清食品より田舎ソバ二箱援助してもらい。夜7時迄測定した午後班もキャンプに帰り夕食をとり寝る。

7月5日(日) 仙台——三戸 天候 霧雨

全員5時起床。7時10分名取川出発途中トラック不調のため遅れる。平泉の中尊寺を見学した後昼食をして1時中尊寺出発し、夜8時頃三戸の町で夕食をとって11時城山公園でテントを張る。全員疲れきみでぐつすり寝る。

7月6日(月) 三戸——大館 天候晴のち雨

全員5時起床。公園の管理人に挨拶して、7時半出発。昼頃青森市を通過し国道4号線より国道7号線に入る。一時奥羽線のそばで昼食してから2時出発。大館市入口でトラックが雨のためスリップしガードレールを破つて転落したが二人共無事であつた。転落した車を日通のクレーン車で引き上げてもらつたが費用は学生のため無料にしてくれたので大変たすかつた。なおこの時ホルクスワーゲンで一周している明大自動車部の先輩に大変お世話になりました。その人の御名前を聞いた所名もいわず東京で又会いましょうといつてわかれた。その時一周をやりとげるよう激励してくれたので全員大いに感激した。つぶれたトラックを応急修理して、藤倉運転、荷台には高中、杉浦が乗って10Km/hのスピードで旅館に向かう。この時夜空にうかんだ月が大変美しく思われた。8時半旅館に着、とりあえず食事をしてから全員でこれからの事について話し合いを行つた結果翌日大館でキャンプしてトラックを修理する事にきめる。

7月7日(火) 大館市内でキャンプ 天候 晴

8時起床。大館市内の川のほとりでキャンプし昨日の事故でこわれたトラックのフロントガラス、パンキング、ラジエーターの漏れ、パンパの熔接、前輪のとりかえ等の修理をし修理費に16,500円要す。修理もその日の夕方に終り全員元気を回復する。昨日お世話になつた日通の所長さんの

所に挨拶に行く。

7月8日(水) 大館—酒田 天候 曇のち雨

一昨日の事故の興奮もようやく覚めた今日全員5時起床し自動車の点検も済み近所の子供達とも別れを告げ7時予定通り秋田の大館を出発し新潟間まで中心点である200キロ地点の酒田市に向つた。途中の最悪路も何事もなく全車が酒田市に到着したが秋田、山形の海岸線の景色は世間の評判通り絶景であつた。この様に何ら事故も故障もなく今まで順調に秋田、山形それぞれの市内を通り最上川にかかっている両羽橋を通つて最上川付近の赤川に5時頃到着しここでキャンプすることになつた。いよいよ明日は不運にも地震の災害に会つた新潟に入る。皆は新潟支局の新聞に義捐金を寄附するのだと明日を楽しみにして待つている。

7月9日(木) 酒田—新潟 天候 薄曇のち雨

5時起床。7時15分キャンプを出発し国道7号線を南下し新潟県巻町の小山家に向う途中新潟地震のために排水ポンプが故障した所に大雨が降つて浸水し道路がわからなくなつた所でトラックが右前輪を道のわきにおとし荘内運送の大型トラックで引き上げてもらう。新潟県の山道でルノーがひどいオーバー・ヒートを起す。又大変な悪路のためベレルに取付けてあつたオートエナーをおとす。国道7号線から8号線に入り5時新潟市内に入るとさきの地震のため建物は傾き道路は地割れを起し、市内は車と人で混雑しひどい状態でした。新潟市内を走りぬけて小山家に行くときトラックがぬかるみにはまつたためベレルで引張る。この日は大変苦勞し、やつとのことで夜の9時頃目的地の小山家に到着。大変御馳走になりました。

7月10日(金) 新潟—大潟 天候 雨時々曇

昨日の疲れにもかかわらず責任者、副責任者は6時頃起床し岡教授から頼まれた新潟地震に対する義捐金4,400円を新潟日報に提出するために6時半頃友人宅を出発した。その間残りの人は8時に起き朝食を済ましてはるか遠方に見渡せる佐渡ヶ島と並んで海岸線を散歩し新潟に行つた二人を待つ事にした。今日は新潟～金沢間にある直江津まで行く事にしキャンプを張る事にした。前日の疲れも癒す事が出来、いよいよ11時に出発する事にし帰りには当地の名産である西瓜を20数個もらい予定通り11時に友人宅を出発した。前日の道を新潟市に向つて8号線に出、信濃川と相並んで直江津に向う。新潟地震により無残にも全壊した家、半壊した家、傾いた家等のそれぞれ被害を受けた人達の目の前を通り過ぎた我々個人個人の胸中は地震の恐ろしさと被害を被つた人達に対する悲訴の気持でいっぱいであつた事でしょう。さて我々は前述の気持で国道8号線を雨に打たれながら直江津に進んでいつた。しかし我々が考えていた以上に悪路で思う様に目的地に着かず、夜の暮れるのが夏には遅いとは云つても7時頃には太陽は西に傾き夕暮近くになつて我々の車は直江津の手前大潟の給油所のシエル(貝)の光が夜空にうつっている月の様にぼつかりと浮んでいるのを見つけ我々は明日のガソリンに備えて給油する事にした。偶然という言葉が次の様な時に作られたかの様に偶然にも給油所長が明大の先輩であり、自分の子供が帰つて来たかの様に我々を歓喜に溢れた態度で迎えてくれた。所長さんは自分のいにしえの学生時代に思いふけりながら我々と一杯交し10時頃皆床についた。

7月11日(土) 大 湊——金 沢 天候 晴のち雨

7時起床。朝食を御馳走になり全員で記念撮影をしたのち9時20分出発。我々は親不知を通つて金沢に向う途中景色もよく立山連峯もうつすらと見えたが道が悪くベレルのマフラーがとれる。昼食を糸魚川ですまし夜7時金沢駅前につきましたが降雨が激しかつたために鍋屋旅館にとまる。警察署に明日の測定のための許可をとりに行つた所すぐに許可してくれる。夜新潟県でひとしたオート・エーナの処置について水興社に長距離電話して意見を聞く。

7月12日(日) 金 沢——教 賀 天候 雨のち晴

起床7時、午前中雨のため昨日測定を許可してくれた交番に測定中止した事を伝えに行き11時鍋屋旅館を出発する。トラックがパンクしたため修理に出しその間にベレルのマフラーも修理に出した。修理屋に行つた者以外は兼六園を見学2時県庁前を出発。途中トラックがアフターファイブを起しパンパン音をたてながら走る。武生トンネルと教賀通りの有料道路を通つて教賀の松原公園にキャンプしてローソクの明りで夕食をする。夜中に強風雨のために大テントの支柱が折れ大テントに寝た人は大いにあわてる。

7月13日(月) 教 賀——久美浜 天候 晴

5時起床。出発の際トラックの調子が悪くポイントの調節をしたために10時に一路国道8号線を南下する。国道8号線から27号線に入り1時小浜で昼食をする。ルノーのパンクを自転車屋でなおし舞鶴をすぎ、国道178号線に入り7時頃天の橋立に到着し見学兼夕食をしてから天の橋立は国立公園のためキャンプが出来ないために8時出発して夜道を走つて12時半久美浜の海岸でキャンプする。

7月14日(火) 久美浜——鳥 取 天候 快晴

今日は7月3日以来の快晴となり皆は久振りのかんかんと照りつける太陽を見つめていた。しかし、昨夜の夜間走行の疲れで朝遅くまで寝ていると思つたのであるが曇りのために殆んど8時頃までには起床していた。朝食は取らずに、途中適当な所で夕食する事にし9時久美浜海岸を出発して今日の目的予定地である鳥取の砂丘地に向つた。豊岡までの178号線を後に9号線に突入し、ひたすら悪路の中で埃をかぶりながら進行した。途中久美浜海岸を出て1時間余りの所で志賀直哉で有名な城崎町に出たがその当時のおもかげはちらりともぞかせていなかった。直この城崎市で給油を全車に関して行う。パンクは続出したけれども何ら事故らしいものはなく無事に鳥取砂丘の近くである松原で先ずはキャンプを張る事にし東京とは違つた情緒ある田舎の浴場に入つて一日の苦勞を芳い疲れを癒して11時皆床についた。

7月15日(水) 鳥 取——出 雲 天候 雨

前日は目のあたりに見た快晴であつたけれども夜に入つて皆が寝静まつた後午前0時頃より鳥取砂丘では雷雨と風雨に見まわれ松原によつて風が共鳴されて直いつそ激しい音と化したのであつた。テントの人、自動車の人それぞれが気がきではなかつたでしょう。特にテントの人は支柱を支えながら寝た人もいる。皆はいくぶん楽観的に考えこの自然の脅威は朝までには治るだろうと思つていた。しかし朝になつてもいつこうに治まろうとはせずそのためにテントのシートは濡れ砂は柔かくなつて出発が危まれる状態であつた。しかし皆の豪雨の中の健闘もよろしく無事に松原を出て国道

9号線に出る事が出来た。途中修理もあつて全車鳥取県庁前に来たけれども県庁前の交叉点は水が40cmもたまり我々の車はやつと通り抜ける事が出来た。翌日の朝刊によるとこの雷雨と風雨は鳥取県の集中豪雨であつた事が解つた。この様な状態では新潟県での苦い経験もあるので一応松江方面の道路状態を警察に問い合わせた。その結果何らの被害も出ていないとの事なので全車県庁前を午前11時出雲に向い9号線をまっしぐらに快調な爆音と共に進んだ。途中悪路のためかパンクが続き思う様に進行出来ずもどかしかつた。我々にとっては2回目の有料道路に来たのは日がもう穴道湖の西の方に傾けかつた夕暮れ時であつた。穴道湖を横に見やりながら快適に走る気分は今までの悪路を忘れさせるかの様に素晴らしいものであつた。穴道湖の有料道路を抜け出て出雲に着いたのは夜もふけて町の中は今にも静まりかえようとする9時頃であり、今からではキャンプも出来ないで夕食抜きの500円で笠屋旅館で一泊する事にし悪路による疲れをこの旅館で癒やした。

7月16日(木) 出雲——津和野 天候 晴

4時半に起床し、恋結びにえんの深い出雲大社に行く予定でありましたがあいにく雨に会つてしまい喜んでいいのか悲しんでいいのか7時まで寝る事が出来た。7時半に食事をし出来る事なら益田を通り抜けて益田からさらに50キロ地点に到着出来る様に事が我々全員の希望であつた。翌日の益田～福岡間は250キロぐらいあるのでそれをもつと楽にする事のためだつた。途中大田市大森町で給油しその間ベルのマフラーを取りはずした。この大田市大森町には大森五百羅漢がある。東京目黒にも五百羅漢寺がその他数ヶ所にもあるがこの大森五百羅漢は徳川時代の中期大森銀山全盛時代の宝暦年間にきつきあげられたものだと言われている。所で五百羅漢は釈迦の弟子で阿羅漢となり釈迦に随従していた5百人の聖者であるか又は釈迦入滅の時に集まつた5百人の聖者を羅漢像と云われ5百体全部が完全に安置されているのはこの大森五百羅漢でその君臨をのぞかせていた。又この9号線(山陰線)はその昔徳川時代に大森銀山と佐渡金山の全盛時代に出来たものでそれが今までも残っているのだからこの上もない悪路であるという事です。ところが今日に限つて我々全車はパンク一つも出現せず我々一同不思議に思つている次第です。我々が益田に着いたのは夕暮時であつたのでそのまま津和野まで走る事にした。又天候の方も時間のたつにつれ晴に向つていた。そのためにこの間の9号線の道路では砂けむりのためにライトを照らしても10メートル以内しか見る事が出来ず、来年来る後輩のためにも交通安全のためにも早く良りよくなる事を我々一同心から願う次第であります。津和野には9時頃到着し外で夕食を済ましたけれども目ぼしいキャンプ地がないため出発以来初めての全員車中に寝る事にした。

7月17日(金) 津和野——百道海岸 天候 晴時々雨

我々一同は午前6時に目覚め待ちに待つた関門トンネルを目指して一路福岡に向うのは今日という日である。草原で寝た2名を除いた以下14名は車の中で寝たためかぐつたりと疲れた様子であつた。そのために事故を防ぐには全員の注意力が安全交通に注がれる様に祈る以外に道はなかつた。今日も山口まで悪路のために故障車が出るのではないかと心配したが山口までは心配無用であつた。9号線から山陽沿岸にそつてそそがれてきた2号線との合流点付近で皆の目がいつせいに朝日に照らされてきらびやかに光つている瀬戸内海に引きこまれていた。我々が通りすぎて来た石川、鳥取の山陰地方では集中豪雨が直も続いているようですが、この瀬戸内海付近ではいつこうにその様な様子は見えなかつた。山口に着いたのは7時10分、この分なら今日一日も無事に福岡に着く事が出来る事を確信し山口からの舗装道路を突き進んだ。海底トンネルの関門トンネルを出て小倉入りした

のは12時であつた。この小倉から国道3号線になり途中予定を変更して国道2号線に入つて東洋一の吊橋で両側に美しい海を見わたせる若戸大橋を渡つて東京並の交通ラッシュである福岡に3時頃到着した。先ずは福岡の大濠公園に集りキャンプ地を百道海岸の海の家(1人2泊350円)に決定した。疲れも入つていたせいか明日の天神交叉点での測定日に備えて10時頃就寝した。百道海岸へ向う途中ルノーのハンドルが効かなくなつて残りの4台の車との連絡がとざされ夕暮まで手別けて探す事になり一時はどうなるかと心配した次第です。

7月18日(土) 福岡測定予定日 晴夕方から豪風雨

海の家での一夜も明けて海音と共に6時半に起床し午前の測定班は直ちに天神町交叉点に直行し、午後班はルノーを直にいつたりべれにAuto Cleanerを取り付けにいつたりして半日をつぶしてしまつた。天神町交叉点での測定は多種多様な博多女性を見やりながらやつたせいか楽しい測定日になつた。強風のために東京に比べて汚染の方も交通の多いのにもかかわらず少なかつた。測定も7時半に無事に終り夜の楽しい一時を過ごせると思つていましたが10時頃になつて台風の影響がここ10日間一滴の雨も降らなかつたこの地方に突然といつても過言ではないほど雷とともに豪風雨が起り静かだつた海は突如として荒海と化したのであつた。時に今日は大濠公園での花火大会であつたので人通り多い町の人達もこの嵐に驚いた事であろう。我々の泊つた海の家は無事であつたが一緒に泊つた御客の賑々しい仕草に一睡も出来なかつた。

7月19日(日) 福岡——湯の浦 天候 雨

5時半起床。雨の中を7時百道海岸の海の家を出発、一路3号線を八代に向う。途中熊本城を1時間見学し昼食を取る予定であつたが適当な昼食場所がなく、先に進む事にした。予定地の八代には予定よりも早く着いたため予定変更し次の目的地湯の浦(温泉地)には四時半に着いた。宿泊費500円のところ450円にねぎつたためか食事が落ちた。又、温泉地にもかかわらず風呂がなく近所の町営風呂(5円)に今日の疲れを癒すために皆いさんとそこに足を伸ばした。そう言う訳でこの日の宿泊の思い出はこの旅行を通じて一生忘れる事はないでしょう。

7月20日(月) 湯の浦——鹿兒島(華人町) 天候 晴

前日の寝心地の悪い一夜も明けて全員7時10分起床し出発準備に忙しくて出発時刻は遅くも9時になつてしまつた。途中水俣病で新聞をにぎわした事のある水俣市も無事に通過し、男性的な桜島の見える鹿兒島へと向つた。鹿兒島では西郷さんとの記念撮影もし今日の宿泊地を小浜町営の海の家にした。この海の家は、今日閉業したために借りるのには借用証を書かされたぐらいの手厳しさであつた。前方には桜島がくつきりとそびえ、火山脈の威厳さを現わしていた。この地方の人々と實際接触する事によつて我々若い人々との物の考え方が著しく違ふのには驚いた次第です。又無料で借りた以上は、明大生として恥かしくない様に行動し無事に楽しい宿を終る事を胸に秘めて9時頃床についた。

7月21日(火) 鹿兒島——宮崎 天候 晴

華人町の海の家で一夜をすごした我々は朝7時出発一路宮崎市へ向いました。途中国立公園霧島であまりの景色の美しさに我々一同は記念撮影をしました。又肉肉な事にこの霧島では有料道路に入つたとたんに舗装がなくなりましたがまつたくめずらしい事です。霧島のジヤリ道を下る時1人

の登山者即ち京都大学の学生が歩いておりにていましたが彼が山の下まで乗せてくれといわれたので、ベルに乗せて小林市まで行きました。我々はこの町で昼食をとつたために彼とここでわかれまして、午後3時目的地の宮崎につき青島が遠くに見える白浜の海岸にキャンプを張りホイールキャンプでジーンズカン鍋を食べ一時間も半分過ぎた所で全員大いに栄養をとる。夜の反省会の際予定通り明日この地でキャンプするかあるいは観光地を見て行くかと大変もめました。結局賛成者の多い観光地を見てまわる事にきめました。

7月22日(水) 宮崎——大分(彌生村) 天候 晴

白浜海岸を7時出発し、鬼の洗濯板で名高い青島を1時間半見学し国道10号線を一路北上し、九州入りしての初めての悪路を通りましたので我々は大分県と宮崎県の県境で一休みをし、あらためて元気を出してデコボコ道を走り4時頃彌生村に着き小学校の校庭でキャンプをしました。

7月23日(木) 雨後快晴 彌生村——山口県(小郡駅前)

今日午前中から雨が降り出し今日までまる一日晴にならなかつた記録が破られなかつた。幸か不幸かわからないけれども雨の多い旅行である。百道海岸に忘れて来たベルの排気管を取りに行くために5時半ベルが10号線から途中3号線に移り福岡に戻つた。道路も前日とは打つて違つて舗装道路になり途中高崎山のサル見物をしたにもかかわらず11時半には目的地に着いてしまつた。しかし排気管は後かたもなく消え去つていた。たぐ置き忘れていつた洗面器と食器を持つて何か寂しい気持を含みながら後発隊と待ち合わせの小郡駅にひたすら進んだ。関門トンネルを過ぎ、九州と別れを告げる時の気持は往きの気持とは違つていかにしえに去つた人を忘れるかの様な気持で感無量の寂しさであつた。後発隊は10号線をまつしぐらに門司に向い下関から2号線に移り山口の小郡駅に5時頃到着し先発隊が小郡駅に着いたのは6時15分であつた。今日の強行軍の疲れを皆共々に駅前の旅館(600円)で癒やし明日の秋吉台の見物を楽しみに脚に思い深めながら小郡の夜をそれぞれ思いがままに楽しんだ。

7月24日(金) 小郡——広島 天候 晴

福岡でのマフラーの消失も前日の眠りと共に忘れ、新たな気持で出発する事にした。8時起床し今日の見学予定地である秋吉台に向つて9時出発した。周知の通り秋芳洞、秋吉台の絶景さには我々全員目を見張つた状態であつた。ここで昼食を取り、一路原爆地である広島に向つた。途中錦帯橋を見学したためか広島に着いた時にはもう日が西に傾いていた。旅館をさがすのにも時間的に見て無理でありそれに加えて広島市の中心地であつたために金銭的に見ても無理であつた。皆の気持はあせるばかりで目標の旅館は見つからなかつた。そこで全員の意見の結果近くの海岸でキャンプする事に決定し宇品海岸に到着したのは11時であつたため、テントは張らずテントを下に敷いて全員その上で寝る事にした。この場所は夜になるとあやしげな場所と化すきらいがあり、二人づれの人々で騒々しくて一睡も出来なかつた。

7月25日(土) 広島——岡山 天候 晴

午前7時昨夜テントも張らずごろねした宇品の海岸の近くを出発し、平和公園を見学した。ここでは平和の泉で皆顔を洗い、記念撮影をして一路国道2号線をこの日の目的地岡山に向いました。道も完全舗装ですばらしかつたので予定時刻よりも早く2時半に岡山につきました。我々は日本三

大公園の一つである後楽園を見物した。その後旭川の河原でキャンプをする予定でしたが適当なキャンプ地が見つからなくて近くの学校の校庭でキャンプさせてくれるようにたのみましたが、都合が悪くことわられたので後輩の道案内で備前の大浜海岸にいき、その海の家で泊めてもらう事にしました。

7月26日(日) 備前(大浜海岸)——大阪(天王寺駅)

蚊でも生産しているかの様なおもくろしい一夜も明けて前方に広がっている瀬戸内海の塩風に目を覚まし5時に起床しそれぞれの仕事に取り掛かった。6時半には毎度の事ですがひそかな朝食を済まし測定予定地である大阪に向い準備に移った。しかしなにやかやしている内に出発時刻の7時半は過ぎて恐れ多くも8時に出発する事になった。大浜海岸から国道2号線に出るまでは悪路であったが今までこの様な悪路には馴れきってしまったので何等苦ともせず2号線に出る事が出来た。途中、連絡場所になつている明石の友人宅に寄り福岡で破損してしまつた器具を光明理化学から送つてもらい無事に受け取る事が出来たので明日も無事に測定する事が出来るという安心感が出てきた。大阪に近づくにつれて東京並の交通ラッシュが現われさすが大阪だなという感が深まつた。時に日曜日には好天気が重なり須磨海岸付近では湘南海岸を思わせる混雑ぶりであつた。途中小さな故障はあつたが何事もなく修理する事が出来大阪駅前に着いたのは大阪駅の大時計が5時を指している時であつた。これから旅館を捜すという頼りない話であつたが大阪でも一流の旅館を見つける事が出来いよいよ全車が目的の旅館に向かうとした時ベルに一人の男性が近づいて来て故障自動車を直してくれないかと依頼して来ました。我々の自動車のネームを見たのであろう。しかし御期待に添えずこの様な遠方に来てまでも知識のいたらなさには後悔の念をいだいた次第です。

さか、大阪府警に汚染調査の相談に行き、天馬警察署を紹介してもらいました。そこで測定許可をもらい、又コード等を貸してもらいました。

7月27日(月) 大阪で測定 天候 晴

起床6時。梅田新道交差点に7時到着、7時30分より測定開始、交通量が非常に多く交差点内で車渋滞する事がしばしばあつた。空気も大変よごれていた。1時午後班と交代する。高中、岸両名が留守部長からの連絡場所となつている部員の山野君の家に行き、他の者は4時迄市内を見物する。6時30分午前測定者は京都のハトヤホテルに向い。7時迄午後班は測定し、エア・サンダーのコードを天馬警察署でかりためたために高中がかえしに行つている間に他の者はガソリンスタンドで待ち、全員そろつた所でトラック、赤タット、ベルの三台で今日の宿泊地京都に夜の国道1号線を走る。なお大阪府警並びに天馬警察の方々に大変お世話になりました。

7月28日(火) 京都で測定 天候 晴

昨夜はハトヤホテルに泊つたが、ホテルとは聞声が良いが、その別館の修学旅行用の室である。午前班は6時に起床し、測定場所の四條烏丸の交差点に行く。回りが銀行ばかりで表茶に困らなかつた。また新京極に近く、測定の合間に行つて見たが、修学旅行で来た時と感じが違つていた。これは昼間の暑い時であつたからかもしれない。この日は厄日で、ほとんどの人が朝食で中毒にかかつて測定している間何処もトイレに行つたが、幸いに夜にはみんな快復したが自技研には中毒にかからない人間もいるのには驚きであつた。京都では婦人警察官が、交通整理を行つており、これには停車しないわけにはいかないであろう。午後には夕立が降り、測定しやすくなつた。

7月29日(水) 京都—四日市 天候 晴

9時に京都駅前ハトホテルを出発。今日は午前中京都を見物し、明日の測定地、四日市へ向う予定である。苔寺から赤タツトはすぐ四日市へ、他車は銀閣寺へ行く。午後銀閣寺を出発し、5時四日市駅前にて全車落合。すでに先発隊が交渉しておいた一木旅館につき、全員疲れを休める。

7月30日(木) 四日市で測定 天候 晴

午前班は6時半測定地へ出発する。測定地は1号線と名四国道の分岐点である。測定を行っていると、近所の店の人が冷たい飲み物などを持って来てくれた。測定の仕方など色々聞かれる。測定中目の前でスクーターがトラックにはねられる。午後の班と交代して午前班は名古屋へ先に行く。名古屋駅の旅館案内所で旅館をさがすが、スポーツ大会があるためどこも高校生で満員であった。市内から少しはずれた旅館を紹介されるが、行つて見るとあまりにも測定地から遠いため、再びさがし直す。午後班は7時に測定を終え、夜の名四国道を名古屋へ進む。8時半テレビ塔の下で落合い、全員名古屋の旅館に到着する。

7月31日(金) 名古屋で測定 天候 晴

6時半起床。午前測定者は7時半からの測定のため笹島町交差点に急ぐ。7時半からこの一周最後の測定を始める。非常に広い交差点で車の台数が多い割にCOの量はそれほど高くはなかつた。午後からの測定者は金のシャチホコで有名な名古屋城を見物に行く。1時午後測定者と交代する。午後班は日本が一番暑いといわれるこの地で夜の7時頃迄測定をする。夕食後全員夜の名古屋を見学する。

8月1日(土) 名古屋—三島 天候 晴

7時起床。旅館を8時20分に出発し、国道1号を東京へ向つた。朝のラッシュのために名古屋を出るまでは混雑したが、出てしまうと完全舗装で快適なドライブで、天竜川を渡り静岡県に入り、1時頃浜松市に到着し、近くの大庭さんの家により、おすしをどちそうになり、しばらくぶりに家庭の味を味わう。4時頃沼津についたが、お祭のため旅館が満員なので三島へ向う。富士が夕焼けに染まりとてもきれいだつた。その日は三島で旅館に泊まり、東京へ100Km近くなつた。

8月2日(日) 三島—明治大学前 天候 晴

8時起床。いよいよ一周も最後の日全員これまでの疲れを旅館での十分な休息で取りのぞき元気いっぱいに9時40分旅館を出発、途中町のガソリンスタンドで給油する事にしたが道があまりにも狭く又スタンドも小さかつたので混雑するのをさけて先をいそいで天下の陰箱根の山を登りました。三島でガソリンを給油しなかつたために赤タツトが頂上までの中間にあるドライラインを10m位登つた所でガス欠、坂道を利用してドライラインまで車をバックさせ、青タツトが三島まで引き返してガソリンをかつてきて赤タツトに補給し先に進んだトラック、ムノー、ベレルに頂上でおいつき、日産リーフセンターで他の車にもガソリンを少し補給し箱根の美しい景色をながめながら下り坂をいつきにおり、昭和石油のガソリンスタンドで全車十分にガソリンを補給して一路東京へ向う。途中で大磯の小島家で昼食を御馳走になり、あらためて元気を出して藤沢バイパス及び横浜バイパスを走つて京浜第二国道を通り東京タワーの下を通過した所で全車整列して各車共明大校歌を歌つて記念館前に全員無事到着、トラックに最後の地東京の名前を書き全員で記念撮影をしてトラックの荷物を部屋にとりあえずかたづけコカコーラーのアイスクリームで完全走行の無事を喜びあつた。



日 本 一 周 感 想 文

## 道路状態について

杉浦恒雄

近年若人の間で最も魅力あるレジャーは？と聞くと10人の中9人までが「それはドライブさ」と答えるそうである。たしかに可愛い彼女を横に乗せて80km/hのスピードで飛ばすのはごきげんなことであろう。年一回開かれるモーターショーも大盛況を呈し、都内を走っている車も100万台になろうとしている。この車の数に対して、日本の道路はどんな状態であろうか。欧米各国に比して日本の道路は悪い事で有名。一部には九州横断道路とか、名神高速道路のように欧米のハイウェイにも匹敵する道路も出現しているが、全体的に見たらまだまだお粗末なものである。自動車業界では、時あるごとにハイウェイ時代到来をつけているが、その土台ともなるべき日本の道路は一体どんな状態なのか。

今夏日本の代表的道路（一級国道）を選んで走破した日本一周についての記録から簡単に記してみよう。

先ず東京を振り出しに、通称奥羽街道ともいう国道四号線、俗に奥の細道と呼ばれた地方を縦断している道である。宇都宮までは、シヤリトラの暴走で運転も注意しないと危険だが、そこをすぎると、福島、仙台、盛岡と車台数も少なく、道は完全舗装なので気持のよいコースである。さすがは東北の首都仙台に続いている道であると感心させられる。しかし、盛岡から青森にかけては只今工事中が圧倒的に多く、来年までには完全舗装になるのではない。

青森で四号線に終りをつけ、七号線に入るが意外に良い道が続く。しかし弘前を過ぎるころからこれが一級国道かと疑問を抱かせる道に入る。秋田、新潟は国体などがあつたので、その附近の道路はさぞすばらしいだろうと予想していたが、見事にその期待は打ち破られ、特に本荘、酒田、村上山間では車に乗っているのが、苦痛になり横を走る汽車をみて、汽車に乗っている人が、うらやましくなる程の悪路であつた。ただ心のなぐさめとなるのは雄大な日本海の眺めだけで、もしこの景色さえも我々の視界から消えさつていたら、日本一周が完走出来たかどうか疑わしい次第である。新潟は北陸唯一の都市だが、やはり、例の新潟地震直後通過した為か、市全体が重苦しく、殺気だつた雰囲気を感じられた。難所で名高い親不知は、道中のせまいS字の連続で、運転手泣かせの難所であつたが、そこを過ぎると富山、金沢、福井、舞鶴と完全舗装の道路が続く。特に敦賀を過ぎてから舞鶴に行く迄の右に見える若狭湾の眺めはすばらしく、日本でも有数のドライブウエイであろう。舞鶴を後にしてよいよ山陰道に入ると、舗装は少く、シヤリ道が多い。たとえあつたとしても500mと続かぬ簡易舗装で、東京周辺の道路状態になるのはまだ数年先の様に思われる。ことわつておくが、ここもやはりれつきとした一級国道なのである。

しかし、観光地は御多分にもれず、素晴らしい道路でその土地の人の商売根性がうかがえる。九州の道路は始め、山陰道とほとんどかわらない砂利道の連続だろうと考えていたが、これはうれしい期待はずれとなり、一級国道はほぼ完全舗装といえる状態である。未舗装の部分も急ピッチで工事が進められ、完全舗装となるのも時間の問題であろう。ただ今もつて不愉快なのはいざさかみみづちい話であるが、霧島国立公園の有料道路は砂利道の凸凹道であるにもかかわらず、450円もの料金をとられたことである。

交通量はやはり、福岡市と北九州市が他の都市を圧倒し、東京、大阪と余り変わらない混み方であつた。再び本州に戻り、山陽道、東海道は日本の主要道路だけあり、また日本の表街道と自他共に認めるだけあり、完全舗装されている。しかし交通量に比べて、道巾が狭く、これが日本のメーヌ

トリートかと思うとはずかしい気がおきる。せめて道市100m程度の道路にしたいものである。難所としては、鈴鹿峠と箱根で、どの車もあえぎながらやつとこざつとこ走っているといつた状態であつた。舗装、非舗装路を重点的にして大ざつばに記してきたが、全体を見わたしていえることはまだまだ一級国道と呼ぶにふさわしくない道路が沢山ある。少しでもよいなど感じる道は全て有料であり、せめて名神高速道路程度の道が全国津々浦々まで四方八方に延び延びで終つた時に始めて日本にも名実共に備つたハイウェイ時代が到来するのではないであらうか。

- 完 -

## 日本一周感想文

和田恭幸

本州九州一周六千キロの旅という事で、出発前には担当の難航を予想していたが、今、想い起してみると、自動車旅行としては案外楽だつたと思う。

難しかつたのは、むしろ一ヶ月間の団体生活の方だ。一ヶ月というもの、およそ見飽きた変哲のない顔を朝から晩まで見ていなければならないのだから、多少のわがままが出るのは致し方ないとはいへ、各自にもう少し自制の気持があつたら……と悔まれる。団体生活では、時には自分の気持を抑えなければならないことがある、と同時に言うべき時には自分の主張をはつきりと述べ、後に悔いを残さないことが大切だと痛感した。

前に自動車旅行としては楽だつたと書いたが、今でこそそう思うのであつて旅行中のその時々では随分苦労したものだ。特に前半は福岡まで毎日の様に雨に降られ、その上日本名物の悪路ときている。100歩舗装と言ひ得るのは国道一号と二号のみ。裏日本はまだまだといつた感じ。雨が降れば泥んこ道、天気になれば一寸先も見えない埃り道、ちよつと良いと思えば有料道路。全く月ツカリしてしまふ。何も百キロや二百キロで走れるハイウェイにしろなんて無理は言わない。ただすべての道路を(穴ボコを避けて通らずにすむ様に)真すぐに、スムースに走れる道路にしてもらいたいものだ。

この旅行の第一目的である各都市での大気汚染を測つたわけだが、ここで感じたことを一言述べる。現在都市の自動車排ガスによる汚染が問題になつているのは大都市に限られている様だが、このままでは排ガスによる都市汚染は、今後中小都市にもどんどん広がっていくのではないかと思われる。というのは実際に交差点に立つてみて、やはり道路が狭まぐ、周囲に建物が建て混んでいる程自動車排ガスの影響が大きい様に感じた。従つて自動車は急増しているのに都市の道路は今まで通り、その上無制限なビルの建築ということが続けば、道を歩いていて一酸化炭素中毒でコロリ、なんてことになるかもしれない。今後、多角的な面からの強力な対策がなされるべきである。

## 思い出となる記

小山松男

「智に働けば角が立つ。情に極させば流される。意地を通せば窮屈だ」という漱石の言葉にもある様に、この窮屈な都会生活から脱皮し、地方の人々に接触するという事は学問以外に我々学生の

視野、見聞を広めるのに最も重要な橋樑であると思う。こういう事を腹にすえつけながら計画し、てきた日本一周もいざ終つて見るとなんだか空虚な気持ちにかられてしまう。しかしこの空虚な気持ちの中にある時は今まで経験した事のない九死に一生を得た様な気持ちにさせられたこともあり得る時はくすんだ我々男性ばかりの気持ちを神秘的な起死回生の靈樂で満足させてくれた女性にも出会い、又ある時は我々にとつて未到の地をさまよひ走つた時、等の事を思い出して見ると滑稽である。一生の内二度と体験出来ないこの日本一周には苦しい事も、又楽しい事もあつた。洪水や山道の悪路に悩まされながらも走つたタイヤのあとにはさぞかし我々の苦しみぬいた汗水がにじみ込んでいる事であろう。又、交差点でさんさんと照りしきる夏の太陽を浴びながら自動車による大気汚染の測定をしている姿を月に浮べて見ると或る人は新聞売り姿、或る人は囚人姿、或る人は物乞い姿等、色取りどりの姿で測定しているさまは生涯忘れようとしても忘れられない現象であろう。しかし、それらの苦しみも各地の名勝旧跡を訪ね、古の臭いを嗅いだり、情景にしたつたりする事によつて癒す事が出来た。半月ぐらい雨にたたられ東北地方を雨と共に走つたせいかな東北、山陰、九州地方で旅館に、泊る事が出来るとどんなにか喜しかつた事であろう。又、湯の浦(九州)や、三島での旅館がどんなに悪いにせよ、その時の思い出は一生心から離れる事は出来ないであろう。なんともあれ、我々が実行した日本一周の計画が実現され竜頭蛇尾に終らず完遂した事こそ一生忘れ去る事が出来ない思い出となると言つても過言ではないであろう。

## ガードレールは弱かつた

市川淳郎

第3日目、三戸市の丘の上のキャンプにさわやかな朝が来た。顔を洗ひ井戸水の冷たさが快い。私と彼はトラックに乗り込んで出発。東京と異つて澄んだ空気が我々の汚れた車を洗い去つていくかのように感じられ、気分は快調。車は西側、緑の田畑に囲まれた国道4号を快適に突走る。停まるのはただ運転車の交代とルノーのラジエーターの水の補給にのみ、各車快調、トラックの不調な点も大事にはなるまいと誰もがそう信じて突走る。

昼頃から雲が空をおおい細かな雨が視界を悪くする。この雨とても暑さに涼を与えるのみ、増々好調。平野から小高い山、丘を縫つて走る。今まで舗装道路であつたが急に泥んこの工事中的所に入る。ボテイの低いベルが気になるが、車にゆられるうちに疲れが出たか眠気を催す。眠気ざましに歌を歌ひ続けた。道の両側は濃い緑の林で静まりかえつており、車の通行も少い。道が急に素晴らしい舗装路に変つた。道の左側をマラソンのトレーニングと思われる一団が走っている。追い越し際に「ガンバレヨ」等激励。前を走る僚友の車は良い道に変つたこととてスピードをグンと上げ、林にはさまれた雨に漏れて黒く光つている道を遠ざかつてゆく。濃い緑の木々、暗い空黒い道、その中で道の両側のガードレールの白さが眼に印象的だ。

ぼんやりした頭に突然「ハンドルが取られる」という事が入る。ハツと目を見開くと道路が左右に揺れていたのである。左に曲り、右に曲り、そして左に。白いガードレールがすぐ目の前にある。車のスピードは相当落ち止まれそうだ。しかし、車はゴツンと鈍い音をたててガードレールに当つた。一秒後には私達は車ごと逆立ちしていた訳である。身体のどこにも痛みはない。「だいじょうぶか? 市川」運転者の声がする。彼も怪我はないようだ。フロントガラスは細かく砕けていたが、エンジンは好調に回っていたが、彼がスイッチを切る。ドアも開くようだ。ドアを開いた身体が逆なので出にくい。片足を出した所で後続車の連中が走りよつてきて足を引つ

ばつてくれた。余程の重傷と思つたらしい。

車から2人とも脱出して無事だったことを皆から祝福されてた嬉しかつた。だが数秒後冷静になつた時、この事故の重大さをひしひしと感じた。日本一周の前途が危ぶまれたのである。この急事も幹事長を中心にして結束することにより克服し8月3日、一人の落伍者もなくこの壮業を成し遂げることが出来たのである。

## 日本一周はいかにして行われたか

今井浩一

今になつてみると、本州と九州一周の30日間はあつけないほど早く過ぎてしまつたような気がする。毎日のように雨に降られたり、汗と埃で泥まみれになつたり、夜は蚊の大群に悩まされたりしたにもかゝらず、そんな事が今は楽しい夢のように思われる。一生の間に2度と再び出来ないであろうこの一周の大仕事に全力でぶつかり、悔のないように行なおうと思つたのはきつと僕だけではないであろう。何事を行うにも、計画、準備がいかに大切で大変なものであるかをもつて感じた。一周を成功し終るための要因は、この計画、準備、整理という事が半分以上占めるように思われる。

日本一周を大学生として、「とおとおやり遂げたのだなあ」と思える人は、これらの事を責任を持つて遂行した人だけが味わえるものだと思う。

さて、一周の計画は前年度の12月頃より始められたが、本格的に行ない始めたのは39年の2月中旬よりであつた。皆んなで一応の計画を作り、すぐ渉外係の私と幹事長達と自動車会社へ車を貸してくれるよう交渉を始めた。しかし、どこの会社にも非常に多数の計画書がきいていることを知つた。毎回の様に良い結果を持つてこない私達渉外を、一日中日の当らない部屋で待つていなければならなかつた他の人は、ほんとうに忍耐強かつたに違いない。しばしば外へ出られた私でさえ、途中何度もこの仕事を投げ出したい気持ちになつた。春休みも返上し、連日のように歩き廻つたが、たいした成果をあげられなかつたが、皆んなとよく議論したのは、よい思い出となろう。三月中旬になり我々は、国立衛生試験所の山手昇先生を知りました。先生の助言などにより、計画は急に活気を帯びてきたようでした。我々が初めて先生の研究室を訪れたのは3月18日でした。「今は忙しいから」とか言われて帰されてしまうのではないかと心配していたところ、実験をやりながらも、色々話しをしてくれました。今になつて思ひますが、あの時「今は忙しいから」なんて言われていたら、我々の計画は、そんなにうまくいかなかつたであります。これ以後私は、度々おじゃまし、測定などについて色々教えてもらいました。4月1日(エイプリル・フル)に先生のところより連絡があり、一周の車を貸してくれる所があるとのこと。私にはとても信じられない事でありました。この日がくるまでの長かつたこと、皆んな同じ感じであつたろうと思います。貸りられる事が決まるや計画準備も急ピッチで進むようになつた。我々も測定器具会社、食糧会社、新聞社と歩き廻り援助を求めた。しかし、なかなか思う様にはいかなかつた。にもかゝらず、皆んな元気に一周を終え、一応の成果を上げられた事を心から喜んでいます。以上準備段階の事についてありますが、これらの事が少なからずこれからの私の人生に有意義であることを望んでいます。

## 悪 戦 苦 闘

池 上 哲 二

一か月という長い間の日本一周中の出来事は、今考えればいずれも楽しい思い出ばかりの様に思われる。だが一周中には苦しかつた事、楽しかつた事、腹が立つた事など色々あつたと思う。

鳥取では、国道から少し海岸寄に入つた松林の中にキャンプを張つた。皆ふる屋に出かけて行つたが、この日は食事の当番だつたので、こちらはその仕度で後になつた。夕食後3人で出かけた。ふるに入り久しぶりにさつぱりした気持になつたが、帰り道、暗やみの中で道を少し間違え、車が砂の中にはまりこんでしまつた。すぐそばの家から積んであつたマキを持って来てタイヤの下に敷いたり、石を支つたりするが、タイヤはスリツプして上がらない。砂の上に腹ばいになつて、タイヤの下に穴を掘り、石をうめるが何度やつても効果がない。ふるに入つたばかりだが、手足は砂だらけである。時計を見るともう1時半になつている。他のやつらはもうキャンプで寝てしまつているだろう。全く何でこんな苦勞をしなければならぬのかと思つて歯がゆかつた。その時、闇の中に車の音がし、赤タツトが現われた。帰りの遅いのを心配して迎えに来てくれたのだつた。それからまたジヤツキとタイヤを交互に高くし、石を支つては車体を少しづつ持ち上げる。「今度こそ」と皆で押すが、エンジンがうるさくだけで車はびくともしない。何しろ下が砂地なので、1つのタイヤがぬけ出ると、今度は別のタイヤがうずまつてしまう。この分だと今夜はここで徹夜かと思われた。だが2時半近く皆の力のかいあつて、やつと砂地から脱出することが出来た。遂に3時間もの奮戦だつた。「皆の力を合わせれば、困難な事も成し遂げられる」そう思うことがせめてものなぐさめであつた。その時バラバラとにわか雨が降つてきた。急いでキャンプに戻り、ベレルの中に寝た時はもう3時だつた。外は雨がものすごく、強く窓に吹きあつていた。

今日は福岡まで行く予定である。昨夜は車の中に寝たが、暑さと蚊に悩まされてほとんど眠れなかつた。この所疲れと寝不足で神経がいらだつているせいか、皆な文句ばかり言い合つている。16人という団体生活では調子のいいやつが常に得をしている。めしを食うにも、寝るのにも、すべて早い者勝ちである。今日はまたトラックを運転する番である。ヘルメットを被り車に乗り込む。狭いガタガタ道を進む。前からタンブカーが来る。こつちは道の端に小さくなつて、半分みぞにタイヤを落しそうになつて、相手の通過を待つ。しばらく進むとまたタンブ。今度は道狭くてすれ違いは不可能。相手は全然動こうとしない。仕方なくバックしてわき道へつ込む。タンブにはばかり出合い、いらいらする。その時大きな穴に入つたらしく、ガタンと揺れて隣りの助手席では天井に頭を「ゴツン」とぶつける。「ブレーキぐらいかけるよ」と怒鳴られる。前方からまた車が来る。今度は急ブレーキをかけてよける。キヤをチェンジしようとする、レバーの先端のキヤツブがない。いつの間にか下に落ちたらしい。「アレツ、キヤツブがないや」、「何で今まで気がつかないんだよ」、と言ひ合ひする。トラックに乗ると、どうも運転が荒くなる。こんな事ではいけない、心を静めようとして、別の話しをし始める。丁度12時、車は関門トンネルを抜け九州に入る。

車の後の座席でうつら、うつら居眠りをする。車は絶えずガタガタ揺れている。フロントガラスは埃で真っ白である。今日はあまり変つたこともない。ただ前進を続けるだけである。窓からどこまでも限りなく続く山々を眺めながら、何だか頭がキーンとし、急に心が落ち着いて広くなつた様な感じになる。そして会計の仕事のことを色々考え始める。自分が金の事ばかりに気を使ひ、少しでも節約しようとしているのがばからしくなる。「旅館代はもうこれ以上皆から集めるの

は止めよう、京都あたりで昼食代を配ろう」と決心する。夜、明日の朝のおかずを買いに行く。店の女の人がとても親切で、野菜を買いと、「これはとても美味しいですよ。食べて下さい」と言つて、わざわざ漬物を包んでくれた。田舎の人の親切さが身にしみた。人を信頼し、親切にすることの尊さ、そんなことが自分にも、そして周りの連中にも欠けている様な気がした。

宮崎市に入る。シユロの街路樹が立ち並び、入道雲が高く高く空へ延びる。大淀川を渡り、市内から少しはづれると道路はしだいに海岸に近くなる。前方には濃い緑の山々が連なり、右側は、はるか遠く低い山々が霞む。そして左手には幾分黄色づいた稲穂がどこまでも、どこまでも広がる。しばらく行くと松林の向うにかすかに真青な海が姿を見せる。初めて南国九州へ、そして南の都市へ来た感じがする。両側にピンクの小さな花をつけた木々が立ち並ぶ道路を通つて白浜海岸に出るここにキャンプを張る。ここからは青島も見える。白い雲、青い海、そして緑の小島、あゝ実に素晴らしい宮崎は。

昨日大阪に到着。今日は午前中梅田新道交差点にて大気汚染の測定をする。測定の合間に、角の銀行へ入つて行く。どんなきたならしいかつこうでも「いらつしやいませ」と言われる。冷たい水を御馳走になつて出て来る。今朝は起きた時からどうも腹の調子がよくない。本州に入つてから、暑さのためかこの所胃腸が弱つて食欲もない。朝食、昼食はぬきで、代りに売店で冷たい牛乳を飲む。日中は35℃まで上り、冷たい物ばかり飲みたくなる。6時半大阪を立ち、京都に向い、駅前のホテルに泊る。今まで田舎ばかり走つていたせいか都会の混雑がいやになる。

本日の腹の中に入つたもの、「牛乳2本、水4はい、シユース2はい、コーヒー、むぎ茶3ばい夕食、ビタミン剤3錠、胃腸薬5錠」どうやら水水だけは我慢した。東京まであと6日、体力減退だが早く東京へ帰りたいという気は起らない。あのゴミゴミした生活に戻るのはいやだから。

- 終 -

## 日本一周の感想

藤 倉 久 巳

我々自動車技術研究部恒例の三年生による夏期休暇中の研究テーマは、日本一周しての「主要都市における排気ガスの大気汚染調査」であつた。この大規模な計画も無事に（無事と言つて良いかどうか知らぬが）終り、その研究成果の発表会ともいべき験台祭も盛況の内に幕をとり、ようやく一段落した感じである。そして最後にこの遠征の決算である報告書を作り出版することになつた。この報告書出版に当り、自分なりにこの日本一周の遠征に対する考えをまとめてみた。まず第一に全般的に見て、我々にとつて少々難かし過ぎて、無理した点が多かつた様に感じた。例えば研究テーマの選定、準備の時期、日程等の運び方など反省すべき多くの問題を後に残した。けれども前例のない事、又参加者全員この種の遠征を経験したことのない事を考えれば、大変立派に出来たと思つている。第二に大学生活からサークル活動を切り離して考えることの出来ない我々部員にとつて、この経験は終生忘れることの出来ない印象深いものであつた。又、普段経験出来ない色々な貴重な経験も数多かつた。この事はただ日本一周をやつたというだけで十分意義がある様な気もしないでもないが……。第三サークルの意義。リーダーシップ、社会生活（集団の中の一個人、全体の和、不屈の精神力等）と色々と考えさせられる問題が多かつた。そしてお互に人間的に成長したと思ふ。

第四番目に我々若人の前向きな姿勢、他をふり向かない一筋な気質（前進あるのみといった無鉄砲さ）は必要であるけれども、常にこれで良いのか、これで正しいのか、と矛盾（矛盾といった大げさなものではないかもしれぬが）を追求しなければならぬということをも身を持って体験した。慎重であれと言うのではない。たゞ時々後を振り返れという意味である。最後にこんな事を言つて良いかどうか知らないが、私個人としては、もし後輩達が日本一周をやるうとするならば、このままの姿で受け継いでもらいたくない。それは日本一周が本年が初めてなので、仕方なかつたけれど、日本一周それ自体やることは大変意義があるけれども、その内容の充実、言い替れば日本一周をやる為の手段としての研究でなく、研究をやる為の手段としての日本一周であれと望む。結局我々の研究を第一面に押し出してもらいたい。又研究テーマは自分達に合つた。自分達の方で消化出来る程度の物を自分で決め、あまり他人を頼らぬ様に期待する。本年がかならずしもそうでなかつたというのではない。ただ以上の様な色彩を強くしてもらいたいと思つただけである。終りにこれらの事は将来社会生活をして行く上に非常に役立つと思つている。

## 雨につかれて5000キロ

岸 勝彦

朝、晴れていた。出発、1号車仙台に向けて国道4号線を北上。何か悲しいか雨が降り出した。この雨が我々の行程の約半分を見舞つてくれたとはその時は夢にも考えなかつた。小雨降る4号線をひた走り、我々のための道路かのように美しく・・・憎らしく雨に濡れた4号線。（3日後ジヤリの4号線に又雨が降つた。山路はでこぼこ、夜になつて三戸にて泊。）最早ホームシックになりかけた心持ちで青森-弘前を通過、又小雨が降り出した。国道は4号線から7号へと変つていたが雨は変らなかつた。せつかく作つてくれた美しい道路を速度を上げ大館へと急いだが、又しても雨に邪魔された。当部きつての名ドライバー-木村氏にしてスリッパ、道路下5mヘガドレール諸共撃沈された。我もう再起不能と思いきや、しぶといこと、しぶといこと、車も人もカスリ傷一筋ときた。まつたく恐れいつたものだ。東北、西部を新潟目ざして南下、毎日雨、雨、雨、路は狭くなり険しくなり、山路となり、我が部の高級乗用車-これは7年前の話だが-は板木丸にも負けないきれいな道を息も切らずに死んだ様に、いびきをかいて走り続けた。（途中何の事もなくと行きたい所だが、又雨があつた。）新潟の手前50キロ、地震のせい、政府のせい、国道7号は水下に沈んでいた。蛙の様にあたふたと水の上を歩いていた我々が車、トラックだけが盲目的に突進、道外に右足をつつこんだ。それを助けんがために当部員数名が奮闘して水の犠牲となつた。といつても胸まで水につかつてその拍子に足の脛をすりむいただけであつたがその出てきた格好たるヤチンスケが奴になつて、小便を垂らしている格好に似ていた。この写真がなかつたのが何としても悔やまれる。雨に降られて幸したのは唯の一日、大潟泊の日であつた。雨の為道は掘り返され、凸凹一日の行程としては大きく遅れていた時であつた。日も暮れかかる頃、ふと先導車が停止した。これが運の尽き目であつた。山道から抜け出した所にまだ新しいきれいなガソリンスタンドが1軒寂しくあつた。中に居た親爺（実は我々の助けの主、社長であつたのである。）いざさか酒が入つていたらしく皆と話がうまく合つた。我々の今までの旅程の話、行程の話、これから先へ行つてテントで寝る話といろいろ話をするうちに親爺が何を思つたか（憐れんだことは確かだが）



「俺の家に泊れ」と言ってくれた。当部の調子のいい連中は「渡りに舟」とばかり、すかさず乗り込んで我家の如く手足を伸ばした。飯を食い、酒を飲み、風呂に入り、床まで提供してくれたのには何と言つても有難かつた。その奉仕にはこの家の山の神、おつと失礼、御母上様と御嬢様が参加してくれた。これには部員全員が歡激し、その日までの疲れが癒えたのは言うまでもない。部員の中には彼女に目をつけた者も無いでもなかつたのではないかと今でも思い起すにつれ考へている。こうして我々は雨には降られたが人々の暖かい心使ひて楽しい旅をしていた。金沢では測定も雨のため中止。その代り先に進んだ。鳥取では砂丘の端に露営したが夕方頃から晴れて明日ころは上天気で旅が出来ると期待していたが、天の神は無情にもその期待を裏切つた。我々が昼間の疲れにくつたりと横になつている真夜中の3時頃雷を伴つた豪雨が襲つてきた。テントは濡れ出し一寸木氏が雨の中を一人テントの溝堀りに精を出してくれた。朝になつても雨は滝の如く降り、その中で食事をした。鳥取県庁前も水びたして昨日の様子と変つて見えた。豪雨の中を一路出雲に向つて走つた。出雲では日程の関係で大社も見物が出来ず有志だけが早朝皆の寝ている間にタクシーで見物しようということになつてたがまたしても憎つき雨に過ぎられた。朝5時に目を覚したが、毎日聞きなれた雨の音である。あゝ何とついてないことか！出雲-鳥根-山口と進んだ。こうしてようやく九州入り、車は泥んこ、人も真つ黒でまるで乞食姿であつた。福岡では我々が行つた日までには1ヶ月も雨が降つてないとのこと、我々は予言した。「雨は必ず降る。」この予言は適中した。福岡に入つて2日目の夜、百道海岸、海の家で測定を終つてゆつくりと休んでいる時、突然強風と共に雨が降つてきた。この雨で福岡市の水源は潤んだと思われる。我々は表彰されても良いはずだが何もなかつたとは。こうして雨男達は各地に豪雨、洪水を撒き散らしてきたが、幸にも洪水で先に進めないということはなかつたのである。しかし雨も我々のしぶとさに兜をぬいたのか以後の日程には一滴も降らなかつた。そうして晴天に恵まれて帰つてきたのであるが、今度では東京沙漠で水も満身に飲めぬのである。自然とはかくも意地の悪いものかと感じながら旅を終つたのである。

- 完 -

## 車 の 一 人 言

杉 野 市 郎

一ヶ月という長い本州、九州一周ドライブに参加した我々の仲間はベレル、赤タツト、青タツト、ルノー、ジュニアの計5台であります。仲間のうち最も若くハツスルしているのはベレル君で又彼はドライバー達からも大変可愛いがられていました。他の4台は彼に比べると大変見劣りがする。しかし我々はこのことは仕方ないと思つています。考へてみれば我々は彼に比べると年を取り過ぎている感じであり、実際我々自身この一周ドライブを完走できるのか疑問にしていました。今考へてみれば老齡ながら多くの困難に打勝つてよく完走できたものだと感心している次第であります。この様な有様ですから出発する間際まで大変な騒ぎでした。ルノー君などは一体この一周に参加出来るのかと危ぶまれていて彼自身心配して夜もろくろく眠れなかつた様子でした。ジュニア君は部員の必死なバイトによつて一ヶ月前に購入されこの厳しい一周に参加したものであります。我々はこの一周を完走することに不安を抱いてはいたが出発したからには何が何んでも完走してみせてやる

意気込みでいました。しかし我々の気持ちを知らないで部員の中には完走なんか出来るものか決めてかかっている人がいたのには我々は非常に憤りを感じ、又それによつてよいファイトが湧き出しました。

出発の日です。我々は皆で病氣をしてしまつては元も子もなくなつてしまふから無理をしないでゆつくりとのんびり行こうと思つていましたが、いやはやドライバー達はそれを許さず我々を扱き使い、我々の身体などに全々お構いなしである。これには青タツト君は疲れてしまい、早くも初日から我々本隊から遅れてしまつた。この様な強行にたつたのかジュニア君は四日目にもう疲れてしまい足がふらふらしている。そこに雨で滑りやすくなつてゐるアスファルト道路から一回転して落ち倒れてしまつた。しかし不幸中の幸でどうにか立直ることができました。だがやはり彼にその時の痛みが残つてゐるためか、後にも時々ちよつとしたつまづきをみせることもありました。ミノ君はあの真夏の中を水もろくに飲まずに長い急坂を一気に登り切ろうとして途中で息切れしたり、又酔つぱらつて千鳥足でもつて走つたりして困らせました。

我々はこの様にこの一ヶ月という長い期間に大した事も起さず(本当は一度だけ大それたことをしたのですが)無事完走することが出来ました。我々には一つ不満がある。それはこの一周中の裏日本の時であります。道が悪い所が比較的多かつたために足を痛めてばかりでしたが、一周の前でせめて靴位丈夫なものを買つてくれてもよさそうなものと思つた。

この一周は我々によつては楽しい思い出となつて残り又ドライバー達にも大変楽しく有意義な旅行だつたことでしょう。ここで我々からドライバー達に言いたいことがある。それは今頃彼等は完走出来たのは運転が良かつたからだと自慢しているかもしれないが、我々から言わせればふつ飛ばし道が悪くともお構いなしにすつ飛んでいき、私達の年令も考えてもらいたいものである。お蔭で我々の仲間は今ではたつたの2台きりとなつてしまつた。なんて残酷なんだろう!しかし我々は自技研の人達はきつと我々を大事に使つて長生きさせてくれるようになると思つて信じています。

僕にとつてこの一ヶ月間という長い旅をしかも車でもつて16人の仲間でしたということは初めてあり、又最後であるだけに大変楽しく過してきた。全国各地を車で廻つてその土地の雰囲気というもの全体を感じとつてきたことは、これから社会に巣立つていくのにも何かの役に立ち又忘れ得ない思い出となるでしょう。この一ヶ月間というものは僕人間も大変だつたが車も大変だつたであろう。その様なことを思い、こゝに車になつた自分で想像しながら車の言い分といふか、苦勞を書いてみました。

- 完 -

## 日本一周雑感

小 島 孝

暑い夏の一ヶ月を要した今度の遠征に私はいろいろの意義を見出すことができると思う。測定そのものは別にして、例えば、部員相互の眞の協力や、自分達の力でどこまでやれるか、そうしたものを実際に確かめ得たことである。又、日本各地を回り、そこに住む人々に接する機会を得て、一応、日本というものをつかむ一助になつたとも考えられるのである。私の役目が写真班であつたので、そうした役目柄、風景等を書く方がよいのかも知れないが、そうした絵画的なものより、最も私に印象深かつた、各地で接した人々について書いてみようと思ふのである。

我々が最も多く会つた人種と言えば警察官ということになる。冗談を言いながら説明してくれた人、不勉強をせめられたこともあつた。又交差点では電源をいつしよになつて捜がしてくれた人もいた。皆、善意にあふれて親切であつたと思うのである。しかしこうした良い印象ばかりでもなかつた。某市でのこと、私と岸君だけが道に迷つてしまつたことがあつた。他の連中がその市に留つているということだけははつきりしているのだが、どこにキャンプを張つているのかわからない。車で捜したのだが、とうとうその車もハンドルがはずれるという故障、日は暮れてくる。キャンプは見つからない。結局、警察へ行つた。又電話をかける。そつけない扱いだ。見つからない。仕方なく二人だけで宿をとることにした。翌日になればその市の最も大きい交差点で測定をするはずだつたからだ。車はパンク屋にあずかつてもらうことにした。そうこうしているうちに他の連中に見つけられたのだが、それにしても冷い話だ。ぜんぜん親切なんてところはないのだから。

しかし、これは例外で、警察という所も予期以上に親切な所だというのが私の印象だろう。

その他では、我々のキャンプに話に来てくれたり、朝、出発の時に、記念にと美しい御飯まりをもつてきてくれた人があつた。又、事故で車を引上げるのにクレーン車を呼んだ時、これを大変だろうといつて無料にしてくれた日通の大館支店長、こわれた車をなおすのを夜遅くまで手つだつてくれた通りがかりの明大のOBの人、キャンプ地を心よく提供してくれた人達など思い出すと本当に沢山の人の親切に接してきたものだと思う。中でも新潟の大潟、鹿児島の人、四日市で私達は親切な人達に心暖められたのである。

雨の中を我々は金沢に向け急いでいたのである。悪路には勝てず、ついに大潟で日暮れとなつてしまつたのである。やむなく、そこで留ることにして先ずガソリンスタンドに入つたのです。そこでまた明大の大先輩に会うことができたのです。そこの店主さんが明大出身だつたのです。話をしているうちに宿つていくようにと言つてくれたのです。我々には本当に有難いことであつたが16人という大勢なので、いかにしても一軒の家に宿するには多すぎると思つたのであるが、なんとかも宿まつていくようにといつてくれ、とうとう宿ることになつてしまつたのです。社長さん(御主人が奥さんをこう呼んでいた)や御嬢さんに大変御世話になり、畳の上の一夜を過ごすことができたのです。

隻人では、前日、キャンプを禁止した所を、わざわざ東京から明大生が来たのだからとのことで提供してくれたし、大勢の人が話しに来てくれたりした。

四日市でも、測定中、暑いだらうからといつて近所の人がジュースなどをもつて来てくれたし、本当に我々には楽しい思い出を多くつくつてくれたのである。

## 日本一周雑感

一寸木 和彦

16名もの大人数が夏の一ヶ月間を自動車で一周出来るかどうか疑わしいことであると思つていたが、実際行つて見てしまうと、大気汚染による日本一周という目的のもとに、全員が一年も前から準備してきたのであるから出来たのも不思議でない。これもみな部員相互の信頼が実つたものであると思われる。

自動車の排気ガスによる大気汚染といつても大都市だけで、しか問題となつていなくこういう問題

は経済の発展と共に必然的に現われて来るもので、実際一周して見て、たいして広くもない日本の空が、特に太平洋側がよごれてしまうであろう。我々の行った調査は、ただ一日だけで、しかも条件が同じでなく、結果として風向や風力や車の台数によるある程度の比較しかできなかつたが、そこに本を作り、そして我々の部員がこの問題に対しておおいに知識を吸収できたばかりでなく、将来何かの形でこの経験を生かすことができるであろう。またこれと同時に各都市や町や村を見る事ができたのは、自分が今まで全く井の中のかえるであつたが、表面上は日本という国は海で囲まれた緑の山の国のようにであるが、裏から見れば、その一角にへばりついて生活しているように、特に裏日本では感じられたが、しかしその上に人間のバイタリテイというものが感ぜられた。途中裏日本では悪路で、あちこちで道路の改修をしており、それに農村、あるいは漁村の人達が従事していたのが目についた。そして後何年かて裏日本の道路も整備されて発展して行くであろう。

遠征を終えて感じた事は、あのオンボロ車で故障や事故もなく廻れ、そしてお互いに分裂することもなく団体生活が出来たという事は、この貴重な経験を将来に生かしたいと思う。

最後に記録係として、この一周が日程におわれて、目的地に夜遅くついたため、十分な連絡が部長と、その他の人と不十分になりがちになつてしまつた。

## ひどい食事

高 中 弘 光

本州、九州を一周する当部初まつて以来の大がかりな夏期走行テストは、参加者16名、使用車5台で7月3日出発以来31日の日数を費やして、8月3日無事本校に到着したが、この日本一周を今ふり返つてみると、色々な事が頭に浮かんで来る。

まず思い出されるのがキャンプの食事である。炊事班長の大庭君の指揮のもとに、4人づつの炊事当番が交代で腕を競い合つたが、何分班長以外は未経験の者が多く、それだけに珍らしいものが出て来る。朝食などは味噌汁や卵子又はラーメンなどと決まつているからまだよいが、夕飯となると変つた物が現われて来る。中にはランプの光の下だから食べられるが、昼間では食べるのをちよつと考えてしまいそうに見える物もあつたが、味の方はまあまあと言つた所であつた。しかし煮物などは何で味付けをしたかわかつたものでない。鍋の中に手ぬぐいなどを落してしまつてもそのまま出してしまひ。又濛雨の中で朝食のラーメンを作つた時など、鍋の中にビシヤビシヤとはねた泥水や木のかけらが飛びこんでくるし、上からは雨と一緒に松葉が落ちてくる。ても他の者は知らないで食べているし、炊事班の者は知つてて食べている。自分が炊事当番になると、めんどろなもので簡単なものばかり作る。そのせいか、一日の一人当りの食事が60円位ですんでしまふ。突に栄養は精進料理以下である。食事が始まると、炊事班は食事についての自慢を始め、他の者はさかんに「塩が甘いな」とか「これ本当に食べてだいじょうぶか」等とけちをつけるが食欲は普段の二、三倍もあつた。皿に盛られて出された物は一瞬にしてなくなつてしまふ。まつたく早い者勝ちである。マネージャーに奮発して肉を買つてもらい、途中で拾つたホイルキャンプを使つて、シンチスカン鍋を青島の海岸でやつたが、なにしろ肉など出発以来ほとんど食べた事がないのでまたたく間になくなつていつた。自分の前にあるものは、はしてがつちりかさえて焼いていないとすぐなくなつてしまふ。急いで生焼けて食べ、後で腹の具合が心配になり胃腸薬を飲んだ。

自然の中で自分達が作つた物を食べた事は実に楽しい思い出となつた。キャンプでの食事のおか

げで胃のトレーニングが大分出来た。今では、ちよつとやそつとのものを食べても、あたる事はな  
いだらう。日本一周の大きな収穫(?)であろう。

— 完 —

## 「地球は重かつた」

木村俊一

「だいじようぶか、市川」思わずよじれた体を起こして、初めてでたことばだ。

朝7時過ぎ、昨夜暗くなつてからテントをはつた三戸の高台にある公園を後にした。高台から下  
の道路までは、かなり急勾配のジヤリ道、昨夜は気がつかなくつたが、両側にはかなり老木ではある  
が、シクラの木が途中まで残っていた。幸い天気もよく国道4号を北上し、峠ごろには、その最終  
地帯を通過し、こんどは逆に南下、これからは裏日本に入り、かなりの悪路になるものと思われた。  
今日の運転車はトラック、前から4台目、後にベレルがつづいている。昨日から前輪左側のタイ  
アの調子が悪かつた。できるだけスピードを落して走るよう先導車と連絡してある。相棒は市川、  
大きめのサングラス、頭には黒のヘルメット、顔はタオルでおおつている。自分も同じようなスタ  
イル、ところどころまだ舗装工事中で悪路である。前に行く車のホコリが山を右側にして道路が左  
にカーブすると、ほとんど直線になつた。左側には奥羽本線だろう、単線の線路が道路から少し離  
れたやゝ低いところに平行している。前の車との距離がだいぶひらいてしまつた。思わずぬれた  
道路の上で左にハンドルがとられた。すぐブレーキを踏んだ。こんどは右に大きく車体がとられ  
ていく。「市川、カタキキタ」右側の山の切りくずした面が近づいてくる。左にハンドルをもど  
す。そのまま斜めにスリッパ、右に再びもどすこともできなかつた。左側の白いガードレールが  
目に入ってくる。車体とともに体が宙に浮く。足をすくわれた。前方の景色が左に回転してい  
く。様々なことが脳裏をかすめる。すぐく長い時間のように思われる、「ガチャン」という音と  
共に体がたたくつけられた。前は、全々みえない。一瞬上下左右の判断がつかない。出火する  
のでは・・・。

「だいじようぶか? 市川」「ああ」、彼が助手席のドアを開ける。あきにくかつたドアが幸  
いすぐあいた。後継車のだれかが駆けつけてきた。彼の足をひつばる。「だいじようぶだ。ひ  
つばるなよ」その声は自分をほつとさせた。彼につづいて外に出た。エンジンがまだかかつて  
いた。すぐもぐつてキーを切る。泥だらけの車輪が上を向いて空転している。彼と顔を見合  
わす。思わず泣きたいような気持で彼の体をおさえた。手をしつかり握つた。ほつとした気持  
で上の方をみると白いガードレールが途中からゆがみ、根もとからぬけて無気味にこつちに傾いている。  
雨が冷たく体の中にしみこんでいく。ただ寒い。足に力が入らない。ようやく斜面をのぼつて  
道路の上でる。寒い。だれかがジャンパーをとつてくれた。さつき追いぬいたマラソンの一  
団が走つていつた。空は暗く、雨は冷たく、前の林の色は、さつきとはちがつて、灰色である。  
ようやく自分にかえつたとき、この事故の重大さが胸をしめつけてきた。これからさきの行程、車  
の事、どうなるのだろうか。冷たくぬれた道路と暗い空は自分に迫ってくる。自分の不安をかきた  
てるかのように・・・。

それからすぐ部員のこの事故の為の活動がはじまつた。それは団結したきびんを動きだつた。  
この後も、この事故による弊害を最小限にいとめ無事一周を終えることができた。

## 美しき日本一周

大庭修三

美のあるかぎりどこまでも、どんなに速くても僕はそれを求めて行きたい。日本一周はそれを探し求めるチャンスであつた。きつとそれは求め得ることが出来ないといつていた僕でありながらも大きな期待と、それにもし出会つた時への不安に身体の内から興奮の渦が次から次へと湧き出て出発の台図があるまでの間たゞ夢中であつた。しかし出発と同時にそんな期待などけし飛んで連日の忙しさに我をも忘れ、たゞ車の中から通り過ぎて行く美人に思わず喜こんでみたり、又二度と会うことのないであろうと思ひ口惜しがつたりする日々が続いた。こういう旅の中で僕の一番印象に残つたのはなんといつても、いろいろな場所に宿を取り、その中から生れ来た友の新しい面の発見と同時にいま省りみればものすごく懐しく思われるテント生活の苦しみがある。不意の出来事(トラックの転落)により皆が泣きだしたい気持ちを押しこめてそれこそ必死になつて後かたづけした時のことを我々はむしろ忘れることの出来ない美しい思い出として想ひ出すことであらう。この日、旅に出て始めて旅館に泊つたのであるが喜びと疲れと、後日への不安に皆表情が真剣そのものであり、お互いにはげましあつたことは今、考えると本当に価値あつた旅であることと思ふ。若狭港及び鳥取の砂丘でのキャンプは夜中に大雨、大風に見まわられて大窟であつた。「おい、テントが倒れるぞ、みんな支柱を持って」等の声におむさも忘れて笑つてしまつた。一寸木さんだと思つたがテントの中にまで入つて来る雨の激しさの中に「よし、皆の為ならエンヤコラリ」だと言うや否や、スコップを手に取りテントを飛び出し、排水作業を行なつた時はゆらゆら揺れるテントの支柱を睨いのも忘れて支え持つた。こんなテント生活だから旅館や屋根のある所に泊つた皆の喜びは馬鹿みたいだつた。疲れでぐつすり眠つてしまう。時々寝言を言う。その寝言の面白さ、次の日聞いた者は発表する。皆で又笑う。言つた者は真顔で言わないと否定する。又、広島では地面が固いためテントもはずら寝た。蚊は来るし、下は固い、みんな体中衣類をかぶつて寝た。これも良い思い出である。海のみならず他人の心の美しさに苦しみの中に生れ出る美しさに、そして東京での生活を逃れ一日一日夢中に過した、満足に何故か僕は日本一周を思い出すたびに強く強く体中に懐しさが広がつて来る「あゝもう一度・・・」という言葉が何のためらいもなく口に出る。良い事ばかりでなく、嫌な事が多い旅であつたがそんなものをさらりと忘れ美しかつた思い出が次から次へと湧いて来る。我々は無事一人の落伍者もなく廻つて来ました。本当に30幾日を16人もの大人数でいつて参りました。色々な意味で知人、他人に大変世話になつた事も我々は忘れない。まだ色々あつたのであるが、僕の強く印象に残つた事をざつぱりにほんの一部であるが、こゝに報告いたします。みなさんの御協力本当にありがとうございました。

### 「昔の都・京都にて」

早稲田 収

我々三年生は幹事長以下15名が全国8都市の交又点において自動車の排気ガスによる大気汚染調査を行うため夏期休暇を利用して1ヶ月間要して四国、北海道を除く本州、九州一周を行いましたがこの一周が我々に少なからず意義深いものであり、又大気汚染調査のデータがまとめられた時には大いに世間の人々に貢献すべき事をやつたと思ひます。しかし文章で表わしますとあまりにも簡単に

日本一周が出来るかのように思われますが、それはこの一周に参加した16名の部員がどんな苦勞にも耐え一心不乱に各自の責任を遂行したためと思います。ではここで一周中にあつた色々な事を書いてみますと、まず第1にウルトラC着地のトラックの転落、新潟市の大地震による傾いた家々、道路に割目を起して舗装路がひどくいためられた所、又地震が起つてから初めて県外からの通行禁止を解除した日に我々一行も新潟市に行つたため市内は東京並の大混乱、まつたく地震の恐ろしさをまざまざと見せつけられた感じさせました。次に予定を変更して国立公園の天の橋立を見学、その地にキャンプする予定でありましたが国立公園のため、キャンプ地がなく真夜中の12時頃まで走行して久美浜海岸でキャンプした事、鳥取市では大雨に会つて朝食は雨水の入つたラーメン、広島市での野宿、京都市での名所めぐりと数々ありますが、中でも京都市での石庭を見学した事は実に印象深い思い出となりました。即ち私達は午前の測定を終え午後、翌に測定を引きついでから石庭として名高い竜安寺を見学に行きました。禅の寺竜安寺は私は初めての見学、整然とならべてある石一つ一つに何か意味がありそうである。全部の石を落着いて見ると禅の真髓である心を表わしているとか私はしばらくの間、我を忘れ美しい石庭に見とれていました。私はこのお寺を見学し、意味のわかりにくい禅言葉、即ち「吾唯足知」という言葉をおぼえました。つづいて仁和寺をおとすりましたが全く静寂で唯セミの声が寺中をつきぬけあたり一面にひびきわたつていましたが、突然空は曇り雷が鳴りわたり今にも雨が降り出しそうになり、茶店にいた一人の女の人が雷におびえていたのが大変こつていました。私達は、雨が一つ一つ降つて来たので雷の音を空低く聞き帰路につきましたが昔の都京道一周中の疲れを取り去つてくれた所として一周中の事を思い出すたびに私の心の片隅に存在している事でしょう。長いようで短く思われた日本一周も無事完走する事が出来、本当に楽しい思い出となる事でしょう。



## 日本一周の思い出

竹内義則

日本一周をして思い出となつたことを少し書いてみたいと思う。参加車は全部で5台、人員は16名、1年生の運転練習等のため、一周前2週間足らずで車の整備や出発の準備を仕上げなければならなかつた。車の整備に関して書くとタツソン1,000ccは燃料ポンプ附近からガソリンが漏つていたので、タイヤフラムの交換、タツソン860ccはバッテリーの交換、又ブラシの故障でダイノモがチャージしなくなつたのでブラシの交換をした。モノーは、第三番目のシリンダーが役目を果たしていない様であり、馬力が全くなかつた。修理屋で見てもらつたらバルブの故障ということであつたので、二年生にも協力してもらつて自分達でバルブ全部(8本)を交換した。バルブ交換が終つて完全に組立、調整を終えたのが7月1日午後7時過ぎだつた。試運転をしたら調子は良かつた。モノーの整備はどうにか間に合つた。トラック(ニッサンジユニア1500cc)は、一周に間に合せて生田の修理工場を買つたので、悪い所はその工場ですべて直してもらつた。借りた車ベレムディーセル2,000ccは完調である。皆の独力によつて準備はだいたい間に合つたが車の整備に関しては十分とはいへなかつた。

7月3日、東京-仙台、今日は待ちに待つた日本一周出発の日である。4時20分起床、総武線にて5時30分頃学校に到着、部長、先輩に送られて6時45分5台の車は次々と記念館前をスタ

ートした。朝早いので車も交通量は少なかつたが段々混んできた。4号線に入り都内をぬけたら車の数も減つて来た。道路も完全舗装であり幅も広いので各車ともハイスピードである。トラックが少し遅れがちであつた。仙台に着いたのは午後6時である。名取川の川原、バイパスの橋の下にキャンプを設営した。青タツトがキヤブレターの故障のため1時間ほど遅れて7時頃到着した。夕食は野菜の煮つけ、田舎そば入りおつゆがおかずである。腹がすいていたせいか夕食はうまかつた。

#### 7月9日 酒田 - 新潟

今日はついていない日だつた。車はトラック、午前、道路が水びたしになつて10cmぐらい水につかつていた所を通る際、道幅がせまく、道路のはしが分らないため、道の右はしによりすぎ、路肩が柔らかいため崩れて傾いてしまつた。ベレルで引つづつたがスリッパして駄目なので、丁度来た定期便トラックに頼んで引き上げてもらつてぬけ出すことができた。こんどは夕方である。道の悪い所を通つてた時、左はしに寄りすぎたため道のぬかるみに入つてしまつた。こんどはベレルで引き上げることが出来た。田舎の道は路肩が弱くすぐ崩れやすく、つくづくいやだと思つた。ここで運転を代つてもらつて出発、そんなこんなで今日予定の小山さんの家へ着いたのが、午後9時頃になつてしまつた。

#### 7月14日 久美浜 - 鳥取

鳥取の砂丘(松林の中)にキャンプを設営したのが遅く、夕食が10時頃になつてしまつた。夕食後銭湯に行つたが、その帰りに道を間違えて、ベレルを柔らかい砂地に乗入れてしまつた。バツクしようとしたがタイヤがスリッパして動けなくなつてしまつた。この辺は道路が砂地のためタイヤが砂にめり込みやすい。ここは裏道のため特にそうである。風呂から出たとたんに砂との戦いを始めなければならなかつた。11時半頃から2時半頃までかかつてやつと皆の独力が突つてベレルを砂の束縛から引き出すことができた。それまで皆は一生懸命だつた。キャンプ地にもどつてベレル内で寝た時はもう3時だつた。

#### 7月21日 隼人町 - 青島

霧島山の展望台、不動池の水は絵具を溶かした様に青く、神秘的である。午後3時、宮崎市に入り、青島に向う。フェニックスの木も立ち並んでいて南国宮崎の感じがした。途中道路の両側にピンク色の花をつけた木が両側に、かなり長い距離立ち並んでいて、その間を走つているとなんともいえない気持ちになつて来た。青島が近くに見える白浜海岸でキャンプをした。今日は一周中初めて海に入つた。空は快晴、海を見ていると気持ちまでが快晴になつてきた。

#### 7月22日 青島 - 彌生村

青島を見学してから前進。島を一周したが、島内は南国の感じがしてとても素晴らしい。今日の走行は車がルノーで体の調子も良くないせいか、凸凹道がかなりこたえた。今日は彌生村立の小学校でキャンプをした。

#### 7月24日 小郡 - 広島

適当な旅館がないため、キャンプをすることに決めたが、キャンプ目的地の宇品海岸に行つて見た所、地面はシヤリ地でクイを打てず、テントがはれず、車の中や地面にちかにテントやシートをひいて青空の屋根の下で寝た。

26日 姫路城に行つて天守閣まで登つた。姫路城は城内が元のままであり、興味深かつた。外観は他に類がないほど美しい。27日 大阪、28日 京都、30日 四日市、31日 名古屋



の測定は気温が高く、体も不調のせいかな、かなり暑くこたえた。交代で近くの喫茶店に入ったり、銀行に冷い水や麦茶を飲みに行ったりして体を休めた。

以上まとまりのない事を書いたが、日本一周をやつたという事がいつまでも自分達の心の中に良い思い出となつて残れば良いと思う。

## 後 記

昨年、先輩の方がエンジン回転数に対する自動車排気ガスの分析を行ないましたが、これに関連して今年「排気ガスと大気汚染」を研究テーマとしまして、国立衛生試験所、環境衛生化学部の山手昇先生の御指導のもとに大気汚染の実体を全国主要都市において調べてきました。測定に関しては各都市の警察の方をはじめ、測定場所附近の方が大変協力して下さりまして、電源の便宜等を計つてくれましたので測定も予定通り出来ました。又、部員も時には37℃にもなると炎天下に6時間交代で立ち続け、よりよいデータを取るために努力致しましたが、一酸化炭素の測定に関しては、検知管の色を比色表とあわせて測定するために各個人によつて多少の誤差があると思います。エーサンプラーは全部自動装置であつたため、あまりそれに頼り過ぎ50サイクル用のタイムスイッチを3ヶ所程、60サイクルの場所で使用したため、測定時間が10分程少なくなりましたが、それは計算により補正しました。各都市ともなるべく同じ気象条件で測定したいと思い、雨天では測定しませんでした。風の影響等も大きく、又1回だけの測定のため各都市の一酸化炭素の量や浮遊粉塵濃度を比較することは出来ませんでした。しかし実際に見て感じた所では、東京、横浜、大阪が他の都市に比べ大部汚れており、又交通量も多いので、これらの都市では大気汚染対策が早急に行なわれなければならないと思います。今回の調査においては、なにぶん携帯用測定器の種類が少なく、又ほとんどが大変高価なものなので今回は一酸化炭素と浮遊粉塵の測定だけで、窒素酸化物、亜硫酸ガス、炭化水素、鉛化合物等の測定が出来なかつた事は残念に思っています。大気汚染調査は工学化学、医学と大変広範囲のものであり、個人的または一つの試験室程度では手の及ばない仕事でありかなりの組織と予算が必要でありますのでかなり広い範囲に協力組織を持ち、かつ長期間の観測が必要です。国を始め、各都道府県が大気汚染対策に大いに乗り出すことはもちろん重要であります。結局最後は全国民の道徳心が問題となるのではないのでしょうか。今回の本州及び九州一周では地方の方々に大変御世話になり大いに感激しました。又苦勞もいろいろありましたが、今となつては楽しい思い出です。この一周で経験したいろいろなことをこれからの人生に大いに役立てて行きたいと思つています。

最後にこのたび調査を御指導、御援助下さつた山手先生、諸関係会社の方々、地方の方々、警察署の方々、先輩の方々に心から御礼を申し上げますと共に、御批判うけたまわりたく思います。

昭和39年11月

幹事長 高 中 弘 光

- 完 -

## 編 集 後 記

夏期休暇中に調査した大気汚染のデータを8, 9, 10, 11, 12の5ヶ月間にわたり整理を行い、ここに一周日誌及び全員の感想文とあわせ編集をやつて報告書を完成する事が出来ました。これは三年生部員の方々が一致協力して編集にあつた私達に協力してくれたためと思います。

なお、これをもつて私達の日本一周という大計画も本当に終える事が出来ました。なお来年ももつと立派な報告書が作られる事を願つて私達の仕事を終わります。

### 編 集 委 員

大	庭	修	三
小	島		幸
小	山	松	男
一	寸	木	和
一	寸	木	和
★	早	稲	田
			収

参 考 文 献

分 析 化 学

科 学 朝 日

環 境 衛 生 管 理

その他，国立衛生試験所山手昇先生提供  
の資料